

認知症チェックリスト

思い当たることや日常生活にお困りのことがある場合は、かかりつけ医、保健師、あんしんサポートセンターに相談を。

- 同じことを何回も言ったり、質問したりする。
- しまい忘れや置き忘れが多く、捜し物をすることが増える。
- 買い物へは行けるが、昨日買ったものをまた買ってくる。
- スーパーなどで車をどこに駐車したかを忘れ、探し回る。
- 留守番をしていて伝言を忘れてしまう。
- 今切ったばかりの電話の相手や内容を忘れてしまう。
- テレビや新聞の内容が理解できなくなる。
- 電子レンジやテレビチャンネルの操作ができなくなる。
- 食事は作れるが、味付けが変わったり、メニューが単調になる。
- 掃除を几帳面にしていた人が、散らかしっぱなしのままのことが多くなる。
- 考え込まないと日付がわからない。
- 約束した日付や場所を間違えるようになる。
- 慣れた道で迷子になることがある。
- 服装や化粧にあまり気を使わなくなり、洒落つ気がなくなった。
- 新しい事柄に取り組むことをしなくなる。
- これまで楽しかった趣味などに興味をもたなくなる。
- 何をすることもおっくうがり、自分から行動しなくなる。
- ささいなことで怒りっぽくなる。
- まわりへの気遣いが無くなり、頑固になる。

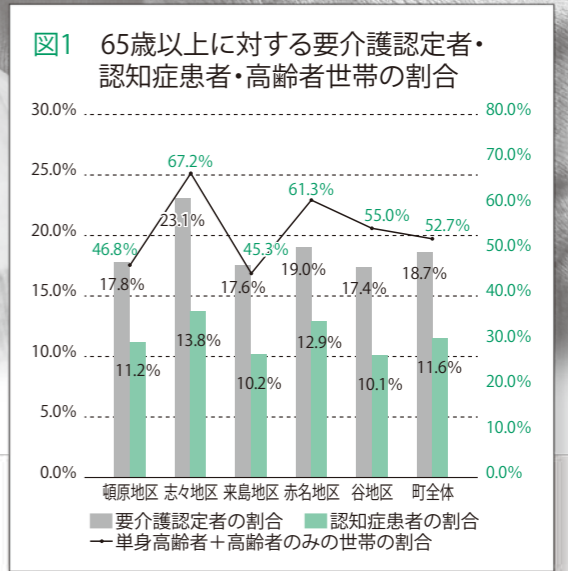
※症状には個人差があります。
※出典…しまね認知症疾患医療センターホームページ

みんなで考える「認知症」

平成30年6月1日時点での飯南町の高齢化率は44.0%。10年前、平成20年6月1日の38.4%から5.6%増加しています。

高齢化に伴って、認知症をかかえる患者さんも全国的に増えています。今回は、身近な病気「認知症」について特集します。

■問合せ あんしんサポートセンター（地域包括支援センター）
電話72・1770



全国的に増加する認知症患者

日本の認知症患者数は平成24年時点で約462万人、65歳以上の約7人に1人。認知症予備軍の人も含めると、65歳以上の約4人に1人と報告されています。

また、いわゆる団塊の世代が75歳以上となる平成37年（2025）には、患者数は全国で約700万人前後、65歳以上の約5人に1人に増加すると推計されています。（厚生労働省）

飯南町は65歳以上の6人に1人

飯南町では、平成29年4月に、要介護認定を受けた人を対象に調査を実施。認知症と診断された人は340人で、65歳以上の約6人に1人（15.7%）。これは、人口の約7%に相当します。また、単身高齢者と高齢者のみ世帯の割合が高い地区で、要介護認定者、認知症患者の割合が高くなっています。（図1）

誰もがなりうる「脳の病気」

認知症は高齢者だけでなく、誰もがなりうる脳の病気です。さまざまな脳の機能障害が起ることで、長期にわたり生活に

支障が出る状態を「認知症」といいます。

認知症を引き起こす病気のうち、最も多いのは脳の細胞がゆっくりと死んでいく「変性疾患」と呼ばれる病気で、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症など。続いて多いのが、脳梗塞や脳出血等で、細胞に栄養や酸素が届かなくなり、その部分の細胞が死んだり、働きが悪くなったりしてしまう、脳血管性認知症があります。

認知症の症状

認知症の初期症状は、同じことを何度も話す、数分前のことを忘れてしまう記憶障害などで、ただのもの忘れと区別がつきにくいことがあります。そのため、医療機関での早めの精査が大切です。

認知症が進行すると、出来事の内容・存在・自体を忘れるような異常なもの忘れ、ここはどこ？今はいった？が分からなくなる場所・時間の見当識障害、言われていることが理解できない、伝えられなくなる言語障害などがみられるようになります。

また、怒りっぽくなるなど性格の変化や「うつ」のような症状、幻覚、妄想、徘徊など行悩みのときは、まずはあんしんサポートセンターに相談してください。

日常生活の困りごとなど、必要な支援を整理することから一緒に始めましょう」と認知症地域支援推進員の岩崎孝美さん。



左から田村素子(保健師)、森山雄三(介護保険担当職員)、岩崎孝美(認知症地域支援推進員)、嘉田将典(理学療法士)、田中多美(看護師)

気軽に相談 あんしんサポートセンター
(地域包括支援センター)
(平日8時30分～17時15分)
家族や身近な人が、「もしかしたら認知症かもしれない」。そんなときに気軽に相談ができて、一緒に対応を考える窓口が「あんしんサポートセンター」です。

「認知症になって一番不安なのは、そのご本人さん。『チェックリストに当てはまる項目がいくつもあるけれど』『病院で診てほしいけどどうすれば』『などお

このセンターには、保健師、看護師、理学療法士、認知症地域支援推進員などの職員が在籍し、多職種が連携して、自立した生活ができるよう支援しています。

このセンターは保健福祉センター内にあり、センターでの相談のほか、自宅への訪問や電話での相談も可能です。